

教育委員会会議録

平成30年8月3日（金） 午後1時30分 開会

午後2時03分 閉会

1 議事日程

別紙のとおり

2 出席した委員等

平松直巳教育長、則竹伸也委員、廣美里委員、大須賀憲太委員、広沢憲治委員
伊藤志のぶ委員

3 説明のため出席した職員

新村和昭事務局長、橋本礼子次長兼管理部長、柴田悦己学習教育部長
玉山哲郎生涯学習スポーツ監、須田文清総合教育センター所長、横井英行総務課長
野村均教育企画課長、高橋亮太財務施設課主幹、稲垣直樹教職員課長
稲葉均福利課長、冨田正美生涯学習課長、小林整次高等学校教育課長
伊藤克仁義務教育課長、北島淳特別支援教育課長、木村誠保健体育スポーツ課長
中田勝徳文化財保護室長、馬場茂インターハイ推進室長、加藤吾郎健康学習室長
稲垣宏恭教育企画課主幹、高井俊直教職員課主幹、都築孝明教職員課主幹
橋本具征高等学校教育課主幹、大谷健二教育企画課課長補佐

4 前回会議録の承認

平松教育長が各委員に諮り、前回の会議録は承認された。

5 教育長報告

- (1) 平成31年度愛知県公立学校教員採用選考試験第1次試験受験状況について
稲垣教職員課長が、平成31年度愛知県公立学校教員採用選考試験第1次試験受験状況について報告。

平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

- (2) 愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（平成30年度第2回）について

小林高等学校教育課長が、愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（平成30年度第2回）について報告。

平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

〔委員の主な意見及び事務局の説明〕

（廣委員）

全日制単位制高等学校は、具体的にはどのような学校で、どういう狙いを持って設置するのか。

(小林高等学校教育課長)

ほとんどの高等学校は学年制であり、1年ごとに単位を積み上げて、3年生で卒業する。1学年ごとの進級要件は32単位程度を修得することとなっており、これに満たないと原級留置となるが、この場合、原級留置となった年度で単位修得した科目については、改めて次の年度にも履修することになる。

それに対して、単位制高校は、1学年ごとの進級という考え方がないため、原級留置も生じない。なお、当該高校を卒業するための要件は、最低74単位修得と学習指導要領に明記されている。

全日制単位制高校の狙いだが、入学段階において、中学校時代に不登校を経験するなど様々な事情により能力はありながらも中学校卒業時の学習レベルが不十分な生徒や、教科ごとの不得意がある生徒でも、自分のペースに合わせて勉強ができる。学年制の高校であれば、1年間で追いつく必要があるが、それを高校3年間でカバーして単位を積み上げて卒業することが可能となることから、入口の面で緩やかに運用ができる。

(廣委員)

全日制単位制高校が、原級留置がなく、3年間で74単位以上修得すれば卒業できるということがわかった。そうであるならば、3年かからなくて74単位とったら卒業できるのか。

(柴田学習教育部長)

まず、1日6限の授業を週5日間行くと、1年間で30単位となる。仮に1日7限の授業を週5日間行うとしても、2年間では74単位にはならない。74単位を取るには、1年間に37単位設定しなければならないということで物理的に不可能である。もう一つは、高校を卒業するための在籍年数が3年間と決まっており、2年では卒業できない。

(伊藤委員)

もし高卒認定試験を受けるとしたら、高卒にはなるのか。

(廣委員)

単位制高校で74単位修得、高卒の資格がないというケースがあるのか。

(伊藤委員)

高校では、74単位を取得するには3年間必要だが、もし、通信制との合わせ技などで高卒認定試験を受け、他の単位と併せて修得をしたら世の中としては、大学であれば受験の要件として認めて、高卒ではないということになるが、これでよいのか。もし、アルバイトをしたり、就活をしたりすると、中卒扱いになるのか。日本の社会は、高卒認定試験で受けた分では、ちゃんと勉強したといっても、履歴書上では高卒と書けない、ということではないか。

(柴田学習教育部長)

高卒認定試験をどの程度認めるのかということは、各学校の内規により定められており、各学校において認められる範囲もそれぞれであることから、中卒であっても大学を受験でき、大学を卒業すれば履歴書上は大卒とできる

ということについては、委員のご発言どおりである。

6 請願
なし

7 議案

第21号議案 平成31年度愛知県公立高等学校入学者選抜方法の基本方針及び基本事項について

小林高等学校教育課長が、平成31年度愛知県公立高等学校入学者選抜方法の基本方針及び基本事項について請議。

平松教育長が各委員に諮り、全員一致により原案どおり可決された。

[委員の主な意見及び事務局の説明]

(廣委員)

長年愛知県は、尾張学区と三河学区の2群でやっていたが、明らかに学校数が尾張の方が多く、それを2群にわけて、三河学区が何年か前に1つに絞り込んだのはわかるが、学校数の違いがあるから2つの群でやっているという考え方はなかなか変えられないと思うが、変わっていく可能性はあるのか。

(小林高等学校教育課長)

様々な可能性があると思うが、この2期の実施計画の後の段階で、中学校3年生の生徒が減っていく時期があるので、そのときに学科改編等を含めて生徒が減少する時期の対応として、議論が出てくる可能性がある。

(廣委員)

世の中の交通事情が変わっていくなかで、尾張に住んでいるから三河の学校に行きたくてもいけないという人や、三河の地域に住んでいるから、尾張の学校に行きたくてもいけないという人がいる。

交通事情、学力、自分の特性にあった学校を選ぶ際に、同じ尾張の学校に行くくらいだったら、三河の学校に行った方がよっぽどよいと思う子がいても、この大きな学校群の縛りによって自分の思いが実現できない子たちの家族がいるのではないかと考えるが、そういう見直しが基本方針を決めるにあたっては、全く俎上には上がらないのか。

(小林高等学校教育課長)

今現在のところでは、別紙裏面にある調整区域のところでは通学については弾力的に運用している。

(廣委員)

今回、甲子園が100回記念と言うことで、西大会と東大会をやって、知多半島が東に入っていた。学校群としては、知多は尾張だが、そういう弾力的な発想というか、これまでいろいろ考えられて今の学校群があるが、学校数も多いだけに、尾張は学校にいろいろな問題を抱えていることがありそうだなと、よく私が質問する定員割れの件もあるので、やはりどこの学校にもまんべんなく生徒が通える状況を作ってあげることも教育委員会としてやっ

ていかなくてはいけないのかと考えていた。

(伊藤委員)

先ほど生徒数が減少する時期がくると発言があったが、人口減という意味なのか、どういう状況なのかを詳細に確認したい。

(小林高等学校教育課長)

今、手元にはないが、「高等学校将来ビジョン」の冊子の後ろの方に、中学校3年生の人数の推移をグラフで示しており、記憶している内容で申し上げるが、平成33年度に一旦底を打って、その後現状に戻って、それから何年か後には徐々に人数が下がっていくグラフが示されている。

(高橋財務施設課主幹)

今年度の中学校卒業生数が、71,300名ほどとなっている。それが、平成33年度になると67,300名ほどに減少する。その後、平成34年度、35年度と持ち直して増加するが、平成36年度以降は、なだらかに減少していく予想を立てている。

(伊藤委員)

今すぐにはどうにかできることではないが、例えば、子どもの数が減っても、特別支援を必要とする児童生徒が増えている。公立高校に関しては、中学3年生の卒業生が減っていても、公立高校を必要とする人を何とか維持するよう工夫ができないかというか、今年度の定員割れと捉えるより、長期的な問題として捉えたほうがよいのではと思った。

(小林高等学校教育課長)

当面は、今も高等学校における通級指導、特別支援の対応、不登校や学習障害への対応も進めており、高等学校の教育の内容も多様化し、深みを増している。現在策定中の第2期計画やその次の計画を作成するうえで、問題として捉えていきたい。

(伊藤委員)

マーケットが小さくなってしまうと、そうしたら深刻な雇用問題である。そういう視点からも話を少しした方がいいのではないか。

8 協議題

なし

9 その他

なし

10 特記事項

(1) 平松教育長が今回の会議録署名人として廣委員を指名した。

(2) 傍聴者なし